

琉球人骨 台湾大が返還

県埋蔵文化財センター 全63体保管

今帰仁村の百按司墓にあつた琉球時代の遺骨を旧帝国大学の日本人学者が持ち出し、それを保管していた国立台湾大学（台北市）が18日県へ全て返還したことが分かった。百按司墓から持ち出されたとみられる33体を含む63体の遺骨が県立埋蔵文化財センターに届いた。今後同センターが保管する。

琉球時代の人骨返還を訴えてきた龍谷大学の松島泰勝教授によると、第一尚氏時代の按司らを葬った百按

司墓から1929年に少なくとも59体が持ち出され、台湾大学と京都大学で保管されてきた。

松島さんは「90年ぶりに遺骨が戻ってきて感慨深い。京都大も速やかに返還してほしい」と話す。26日には県文化財課を訪れ、返還された遺骨を百按司墓へ再風葬するよう要請するといふ。

松島さんが代表を務める琉球民族遺骨返還研究会や第一尚氏の子孫ら5人は昨年12月、京都大を相手取り

遺骨返還を求める訴訟を起している。